

# 地 図

## I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるよう工夫されているか。
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が育成されるよう工夫されているか。
	(3) 主体的に学習に取り組む態度が身に付くよう工夫されているか。
教科 独自 観点	(4) 社会的事象について情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるように工夫されているか。
	(5) 地図や統計資料等は、社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を支える上で、適切な内容、構成、表現方法であるか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長	
共通 観点	(1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに豊かな記述内容となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

## II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

Ⅲ 具体項目

観点	発行者	東 書	帝 国
<p>1</p> <p>を画教育基本法の理念や第三期長 図の趣旨・内容の特長</p>	<p>(1)</p> <p>成の果育一教 育教育の教科 とな成育目育の つにが標の特 って資目目的質 て指の達に いるす人成及 る内容成及び か内問一 容答像一 構一本教</p> <p>(2)</p> <p>れにい文ふ て生て化る いか理やさ るか解歴と長 せをを史崎 る深崎 か題深崎 材め自然伝 がる然伝 抜学に統 わ習つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地図のぼうげんに出発！ WORLD MAP」や「日本の47都道府県」において、世界各地や日本の自然・文化遺産、特産品等を掲載することで、世界の国々の特徴や、我が国の郷土の歴史や伝統、文化、自然に対する理解を深め、世界の国々の人々と共に生きていこうとする心を育む学習につなげられるよう工夫されている。</li> <li>「日本の自然災害」や「自然災害にそなえて」において、災害名や写真を地図上に掲載したり、ハザードマップを基に避難の仕方について考える資料を掲載したりすることで、自然災害への関心を高め、身を守る意識をもつことができるよう工夫されている。</li> <li>「日本の伝統文化」のページに、全国の世界文化遺産の一つとして「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を、「日本の自然災害」のページでは、雲仙普賢岳噴火を取り上げることで、ふるさと長崎の文化や歴史、自然などについて理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>「九州地方」の地図に世界ジオパークとして島原半島を、世界文化遺産の登録地として端島（軍艦島）や長崎造船所を取り上げ、「おもな漁港と水産物」の地図では、おもな漁港として長崎市と松浦市を取り上げることで、ふるさと長崎の歴史や文化、産業の様子に関心をもつことができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地図で世界発見！」のページで各国の有名なものや日本が多く輸入するもの、挨拶などをイラスト入りで紹介するとともに、外国語活動での活用を促す言葉を掲載することで、それぞれの国の伝統や文化を尊重する心を育み世界の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う学習につなげられるよう工夫されている。</li> <li>「日本の自然災害と防災」のページでは、地図や自然災害の年表、被害の様子を伝える写真、災害を防ぐ方法を掲載することで、災害について自分の問題として考え、身を守る意識を高めることができるよう工夫されている。</li> <li>「日本の歴史」と「日本の世界遺産」の地図に、島原・天草一揆や出島、朝鮮通信使が示されたり、文化遺産として端島（軍艦島）や大浦天主堂の写真が掲載されたりしており、ふるさと長崎の文化や歴史などについて理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>「日本の産業のようす（1）」での「各地の水産業」では、おもな漁港の水あげ量を表す地図内に長崎市と松浦市が、九州地方の地図では、教会群やカステラ、オランダ商館跡などが掲載されており、ふるさと長崎の歴史や文化、産業の様子に関心をもつことができるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>2</p> <p>の学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、 長 確かな学力の育成を図る上で</p>	<p>(1)</p> <p>か工に知基 夫習識礎 さ得・的 ささ技・ れ能基 て本 る確 う実な</p> <p>(2)</p> <p>るれ必課知 かる要題識 よ表なを・ う現な解 工思決能 夫考す活 さが力、用 れ育、た用 て成判め いさ断にて</p> <p>(3)</p> <p>工む主 夫態体 さ度 がに れが学 てに習 いに取 る付り るか。く より う組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「空からまちを見てみよう」では、真上から見たまちの様子から地図を作る方法を解説したり、「地図帳の使い方」では、索引の使い方、方位、縮尺についてイラストを使って詳しく解説したりすることで、地図の見方や使い方を理解することができるよう工夫されている。</li> <li>世界全図と地球儀を並列して示すことで、地球儀を使って調べるよさに気付き、方位や距離、大きさや形を正確に調べるなどの基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。</li> <li>「日本の歴史-世界とのかかわり-」では、年表と当時の世界の国々と日本の関係が分かる地図を掲載することで、航路や領土の広がりなどを調べ、歴史的事象について思考・判断し表現する学習活動につなげられるよう工夫されている。</li> <li>「日本の自然-気候-」において、日本の各地の気温と降水量のグラフや気象図、降水量を示す地図を並べて掲載することで、複数の資料を関連付けて思考し表現する学習活動につなげられるよう工夫されている。</li> <li>「都道府県で知っているものをあげてみましょう」「このまちには何があるのか調べに行こう」など、郷土に目を向ける言葉を掲載することで、自分の住むまちと他のまちとを比較して考えるなど、自ら課題を見だし、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>「ホップ ステップ マップでジャンプ」では、地図や資料を活用して解決する課題や調べる視点を示すことで、主体的に学習できるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地図の世界へようこそ」では、ななめ上と真上から見た学校イラストを、「地図って何だろう」では、同じ場所の真上からの写真と地図を併記し、比較させることで、地図の意味や有用性について実感を伴いながら理解することができるよう工夫されている。</li> <li>各地方のページに方位磁針やものさし、日本の中での位置を掲載することで、基礎的・基本的な知識・技能を繰り返し活用し、確実に習得できるよう工夫されている。</li> <li>「地図のやくそく」の「たからさがしにちょうせんしよう」では、方位・地図記号・土地利用など学習した知識・技能を生かす問題を設定することで、課題解決のために知識・技能を効果的に活用することができるよう工夫されている。</li> <li>「日本の産業のようす」では、農水産業や工業・エネルギーの視点において、吹き出しに注目すべき点や調べる内容を明確に示すことで、資料を活用して思考し表現する学習活動につなげられるよう工夫されている。</li> <li>キャラクターの言葉では、社会的用語の意味だけではなく、調べる内容について明確な視点を与えたり、学習活動のきっかけとなるような投げかけの言葉を記述したりすることで、自ら課題を見だし、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>「地図マスターへの道」では、各地方における地理的特徴に関する課題を示し、巻末で学習の進み具合を記録できるようにすることで、主体的に学習できるよう工夫されている。</li> </ul>

Ⅲ 具体項目

観点	発行者	東 書	帝 国
<p>2 学習指導要領の内容や内容等の特長</p>	<p>(4) 社情を的確に把握し、必要に応じて調査を実施し、関係者の意見を聴き、適切な内容を決定する。</p> <p>(5) 地域社会の発展や課題を把握し、必要に応じて調査を実施し、関係者の意見を聴き、適切な内容を決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や資料の全編にわたり、イラストやキャラクターの吹き出し、写真や解説文等を掲載することで、調べる活動において、適切に情報を集める力、集めた情報を読み取る力を高める上で効果的に活用できるよう工夫されている。</li> <li>・各ページの地図タイトルの下にもものさしのイラストや縮尺の説明、方位磁針を掲載することで、実際の距離を調べたり、位置関係を調べたりする活動に活用し、情報を適切に調べまとめる技能を習得できるよう工夫されている。</li> <li>・「日本の交通、都市」のページでは、高速道路、鉄道、空港、港などの交通網とおもな都市についての地図を併記することで、都市の位置や交通網の広がりに着目させ、おもな都市と流通の関係について追究することができるよう工夫されている。</li> <li>・「日本の自然」「日本の産業」では、降水量と海流、土地の利用とおもな農産物などについて複数の資料を掲載することで、気候と農業生産を関連付けて追究することができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トライ！」のコーナーでは、学習した内容についての資料を読み取ったり、地図帳に書き込んだりする活動を位置付けることで、適切に調べまとめる技能を確実に身に付けることができるよう工夫されている。</li> <li>・「日本の自然災害と防災」において、日本や世界で起きた自然災害や災害を防ぐ工夫、防災マップの作成の仕方を掲載し、災害時の危険な場所、安全な避難方法などを調べる活動を設定することで、情報を適切に調べまとめる技能を習得できるよう工夫されている。</li> <li>・「自動車産業のさかんな愛知県」のページでは、自動車産業関係の工場や完成車の出荷について地図中に示すことで、自動車組立工場の分布や出荷の様子に着目させ、自動車産業の生産や流通について追究することができるよう工夫されている。</li> <li>・「各地の水産業」では、海流とおもな漁港の水あげ量を同じ地図上に示すことで、海流（寒流と暖流）と水あげ量を関連付けて追究することができるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点か</p>	<p>(1) 文章は、読みやすく、分量が適切で、内容がわかりやすい。</p> <p>(2) 写真やイラストは、見やすく、内容がわかりやすい。</p> <p>(3) レイアウトは、見やすく、内容がわかりやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心が高まるような情報を分かりやすい文章で随所に紹介することで、理解しやすくなるよう工夫されている。</li> <li>・地図の写真・資料地図における文章は、場所・年代等を明記しながら要点を押さえて簡潔に記述することで、理解しやすくなるよう工夫されている。</li> <li>・日本のおもな世界遺産、伝統文化や食文化の写真やイラストなどをふんだんに掲載することで、我が国の歴史や伝統と文化への関心を高めることができるよう配慮されている。</li> <li>・世界のおもな地域図において、世界のいろいろな動物や料理の写真とイラストを掲載することで、関連する国の位置を確認したり、興味をもった事象をさらに調べたりできるよう配慮されている。</li> <li>・「日本の自然-地形-」では、日本と世界のおもな山の高さ、川の長さ、湖の広さや深さの比較を写真や図で示すことで、見やすいレイアウトになり、視覚的にとらえやすくなるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説の文章は、要点を整理し端的に表現することで、理解しやすくなるよう工夫されている。</li> <li>・「広く見わたす地図」では、地方図に比べ情報量を少なくすることで、学年の発達段階に合わせた理解ができるよう工夫されている。</li> <li>・「集まれ！世界の子どもたち」では、おもな国の首都や人口、おもな言語、豆知識を、「世界のSDGs」では、世界の国々のSDGsの取組を掲載することで、国際理解や持続可能な社会の実現への関心を高めることができるよう配慮されている。</li> <li>・世界のおもな地域図において、馴染みのある物語や曲、関心のある話題について紹介する記号を地図上に掲載することで、教科横断的な学習へとつながるよう配慮されている。</li> <li>・「地図帳の使い方」「資料図」において、内容ごとに枠で囲んだり、各内容間の余白を確保したりすることで、見やすいレイアウトになり、内容ごとのまとまりがとらえやすくなるよう配慮されている。</li> </ul>